

人口問題研究所
研究資料第二十九冊

昭和二十三年十二月

フェアチャイルドの移民無効論について
―移民問題参考資料その一―

厚生省人口問題研究所

H、P、フエアチマイルドは現在アメリカ人口学界における指導的権威者の一人として、その人口理論はアメリカ的常識の最高の表現となすばかりでなく、特にその移民問題に関する所論は現在のアメリカ国民の常識を代表し北米合衆国の政治的志向を理論的に裏付けるものとして、これらにとつて特設の考慮に値いするものと考えよう。以下その要旨を紹介しながら若干の批評を附加へることにする。

フエアチマイルドの移民論の要旨は、一言にして之を云うならば、移民が過去幾世紀に亘つて最大の移民受入国であつた北米合衆国にとつて既に何らの歓迎すべき経済的理出を喪つたばかりでなく、尚の移民移出國にとつても一般に考へられるような過剰人口対策として元來何らの効果があつてゐるのであることを力説する良にあり右論旨の前提については先づ異論はあるまい。移民が北米合衆国にとつて適度人口への到達を速進し、人口一人当りの生産性を増大して一般生活水準を上昇せしむる効果があつたのは独立戦争以前の十三州についてのみ特筆すべきことで、今日に於ては漸しい移入民による人口増加は却つて生活水準を引き下げる方向に作用しており、従つて一般生活水準を維持するために結局に於て在来人口の結婚延期や産兒制限をそれだけ強化させ

てけるに過ぎないというフエアチャイルドの主張はアメリカが移入民統計を始めた一八二〇年以來一人の移入民もなかったとしてもアメリカ人には結局現在の人口量に達しているであらうと云う彼の主張と共に一應承認してしまふと思ふ。問題は移民が移民送出国にとつても過剰人口対策として何らの効果なしとする彼の主張にある。

フエアチャイルドが移民を以つて過剰人口問題を解決する上に何等の効果なきとする理由は結局移民送出国によつて出来た人口の空隙は残留人口の自然増加によつて忽ち元通りになり理められてしまふという点にある。蓋し過剰人口状態にある移民送出国にとつては人口圧力のために一般に多くのあるべき結婚が延期されており、散発的な避妊行為も行はれてゐるの故であり、また死亡率もあるべき水準よりも若干高いのが常則であるから、移民送出国による一時的な人口空隙はたゞこの延期されてゐる結婚も促進し、注意深い避妊行為を緩和し乃至は高すぎる死亡率を低下させるだけで済むにうめられてしまふといふのである。

のみならず海外移民の可能性に対する信頼は却つて出生率を上昇させて過剰人口状態を互に悪化させる場合を考へられる。要之、その生殖水準を向上させるために人口増加を抑制しようとしなす国民にとつては移民によつて之を抑制するの不可能であるといふのかフエアチャイルド

の移民無効論の結論である。従つて永續的安定的な國際平和、國際親善は無制限な人口増加が國民自身の自發的意志によつて調節され、各國の人口がその經濟力に相応する以上に増加しないと、
いう状態が實現される間は永久に望めないといふことになる。要するにフエア・チャイルドの立場は過剰人口問題を國際的經濟問題として、之を國際的に解決しようとする立場を否定して居る訳である。

三

以上の如きフエア・チャイルドの所論は確かに一面の眞理を含んでいる。彼が好んで引例する支那の場合の如くその過剰人口と之に伴う諸害惡とは一九二八、一九二九年の支那の飢饉救済のために派遣された赤十字委員会の報告するとおり現在のところ全く救済し難いもので、世界中の船舶を總動員してもその過剰人口部分を除去することは不可能事だとも云へよう。かそのやうな過剰人口状態は極端な事例に属するもので、國民の經濟的地位に文化的水準がすでに自發的な人口増加の抑制を志向する程度に達している国家にとつて海外移民がその過剰人口対策の一つとして持つ効果については又別の見方が可能でなければならぬ。

そも、海外移民の母國に対する經濟的意義は如何なるものであらうか。筆者の考へる処によ

れば、それは移民として海外に送出される人口割合と一つの國民經濟より他の國民經濟へと移すことである。即ちAなる國民經濟を成立せしめてある所の構成要素の一部をA國から除去し、之をBなる國民經濟の構成部分として編入することである。そこで若しA國に於て過剩人口の事實が存在するならば、即ち自然資源その他の經濟的諸條件に比してそれに依存すべき人口数が相對的に過大であるならば、その過剩部分を除去し、その支持を異なる國民經濟の責任に委ねる（この事は必ずしも該國民經濟にとって買増を意味せず場合によつては利益をもたらし得るものである）ことは過剩人口國の經濟的能カとそれに対応する人口との間に正しい均衡をまたらすことになり、それが移民送出國の過剩人口を緩和し乃至解決する有力な手段の一つとなることは當然考慮されねばならぬ。にも拘らずフエアーチヤイルドはこうした効果を單に一時的のものとし改善された事態は殘留人口に於ける人口増加によつて間もなく無効にされるという。そこにマルサス主義者としての彼の人口思想が有力な背景として働いていることを我々は無視することが出来ない。

四

フエアーチヤイルドの移民無効論の根底に横たわる思想は謂うまでもなくマルサスの人口説であ

る。人口は何ら妨げのない限り幾何学的比率で増加し、生存資料の許す限度をも超えて増殖しようとする生来的な過大増殖傾向を有するといふマルサス人口論の根本可成をその人口理論の出発点とする点においてフエアチマイルドは代表的な近代マルサス主義者の一人である。しかしながら社会の進歩が人間に生活水準向上の欲望を強化し、そのような生物学的傾向を自発的に抑制することによつて過大増殖に伴う社会的諸弊惡を事前に防止するに到るべきものであることと強調し窮乏と惡徳といふ自然必然的な人口増加に対する妨げに替つて産兒制限といふ自発的有意的な妨げの近代的意義を力説する点においても亦フエアチマイルドは代表的な近代のマルサス主義者の一人である。しかるに彼の移民無効論は移民送出国を專らマルサスの過剰人口国として取り扱つており、それらの移民送出国も同じくその社会経済的構造の上に近代化進程への胎動を包蔵し乃至は既にその過程を進行しつつあるものであることを考慮してはいない。

更に考慮しようとする好意がないと云つた方がより適切であるかも知れない。そこに彼の移民無効論と彼の人口理論との間に論理の一貫を欠いた飛躍があり、アメリカ的常識の制約があること云々しよう。自らその生活水準を向上させる爲に人口増加を抑制しようとする国民にとっては

移民によつて之を抑制することは不可能である」と云うフェアチャイルドの結論には異論はないか、しかし彼の移民無効論がこの命題の前提條件を無視して一般的に移民無効論に帰着していることも亦否定し難いところである。フェアチャイルドは前段にもかた如く、好んで支那の過剰人口の移民によつて救済し難いことを引例するが、また之とは正反對に極端な一時的な大量移民の送出が嘗てイタリヤやギリシヤの地本部族の生産年令人口を一掃し、生産力の激減から却つて過剰人口状態を更に悪化せしめたような事例をも引いている。加之も事例の極端な場合で移民問題の中心は畢竟之ら兩根端の中間にある場合、云いかへればその社会経済生活において近代化過程の努力を試みながら、なお過剰人口状態に苦惱しているような國民フェアチャイルドの所謂「自らの生活水準を向上させるために、人口の増加を抑制」しようとする努力している國民にとつて移民送出が如何なる効果をもつかという一頁になければならぬ。

五

右のような見地から問題を再考慮するとき移民送出の効果については又別様の見方が可能でなければならぬ。先づ過剰なる人口を包蔵している國民経済から過剰なる要素としての人口を除去することは少くとも当該國民経済が正常なる進化と発展の途上にある限り、一時的には固より特

に永く將來に亘つて確かに望まぬ結果をもたらすであらうことは疑ない。元々過剰である父の要素の除去であるから、その国の經濟的生産がより少い人的要素の下に於ては従来通り維持されることは謂うまでもない。このことは労働の側面から見れば労働能率の向上であり、労働能率が向上すれば労働者一人当りの所得は増加し、生活程度も向上し、資本蓄積もより容易となり、それは拡大再生産への基礎ともなつてより以上の經濟の發展が可能となる。かくても生ずる生活程度の上は、やがて近代的人口増加力減退を来さしむべき諸條件を創出することになる。又、フエアチヤイルドの力説する移民送出後の残留人口における出生率の向上や死亡率の低下も確かに無視し難い事實ではあるが、しかし又これと正反對に働くかの作用も亦人口統計學的に十分に予期することかできよう。移民として送出されるものは多くは青壯年であるから若し移民が相当の規模に行はれるならば、その關係から残留人口の出生率はそれだけ低下する筈であるし、死亡率は遂に上昇する傾向が生ずるであらう。これは人口増加を抑制する一要因となることは勿論である要之、移民送出國が如何なる社會經濟的乃至文化的な状況にあるかということかその効果の如何を左右する小けて、移民による人口圧力の減退は残留人口に於ける人口増加によつて忽ち埋合されてしまい、無制限に移民の必要を持續するという考へ方が余りに機械的或相的を見解であ

るといわなければならぬ。

六

要するに世界の過剰人口問題を解決し、世界親善への一礎石を置くためには、それらの国々の過剰人口問題を永久的に解決するための先見の明ある方策が採られなければならぬ。その方法は過剰人口国の人口圧力を軽減するため、移民の処理問題について世界が協力することである。國民經濟から過剰を要素が除去せられ過剰人口国の經濟が向上すればやがて其地にはフェアチャイルドの理想とする如の經濟力に添った人口増加が保たれるための條件が自ら創り出されるのである。

國際親善、世界平和へのフェアチャイルドの理想は彼の人口理論の立場からいっても寧ろ彼の移民論を撤回乃至根本的に修正することによつてこそ却つて一層速かに實現されうるといわなければならぬ。